

# タイ王室灌漑局が柏崎周辺農業水利事業を現地視察 (第1回日タイかんがい排水技術交流)

柏崎周辺農業水利事業所

11月、農林水産省とタイ王国農業・協同組合省王室灌漑局の間で第1回「日・タイかんがい排水技術交流」が行われ、東京における技術交流会議のあと、7～8日という日程で王室灌漑局のファタポン上級土木技術官他3名が当事業の現地視察に来られました。

7日は、快晴となり絶好の視察日和となりました。まず一行は市野新田ダムの受益地内にある、廃校を活用した別俣の農家レストラン「喜楽来」に集合し、高橋次長他と挨拶を交わした後、地元の食材を中心とした農家料理を楽しんでいました。

昼食後、現在施工中の市野新田ダムの視察です。盛立は既に完了していましたが、日本最後の農業用ダムの現場ということもあり、興味深く現場を視察して頂きました。事業概要・工事概要の説明の後、堤体盛立材のサンプルに触れてもらったり、パネルを用いて施工の流れ等を紹介したりしました。また、堤頂部を歩きながら付帯施設の設計や施工方法、水の流れやダムの必要性などを併せて説明しました。その中で、ダム工法選定の考え方、設計洪水流量の算定根拠、堤体の材料選定と採取場所、耐震設計、新技術、周辺用地の所有など様々な角度から質問があり、理解を深めて頂くと同時に、一行のダム技術への関心の高さを感じました。



市野新田ダム現場での説明



堤体盛立材等の説明

次に、市野新田取水工の工事現場に移動し、工事概要及び施設や取水の考え方など説明を行いました。市野新田ダムは鵜川の支流の石橋川に建設するもので十分な集水面積を確保できず、鵜川本流からも取水しダム貯水池に注水するという間接流域をもつことがとても新鮮に受け止められたようです。タイでも類似したこのような連携システム（ダム間で用水の融通を行う）はあるものの、新たな視



市野新田取水工での説明

点で施設やシステムを見ていただけたことは有意義だったと感じています。

最後は、供用開始されている栃ケ原ダムに移動しました。ダム下流にある橋や堤頂部などにおいて説明を行い、また、管理棟の中でダムの操作・管理、水管理や水利用の状況などについて土地改良区職員とともに説明しました。

この中で事業費や費用対効果、事業所・施設管理者等関係者の役割分担、機器操作や管理の現状や問題点等について質問があり、ここからタイ王国独特の観点や問題点等も垣間見ることができました。既に供用中のダムということもあり、実際の管理や問題点、事業の効果等について理解を深めていただいたと考えています。

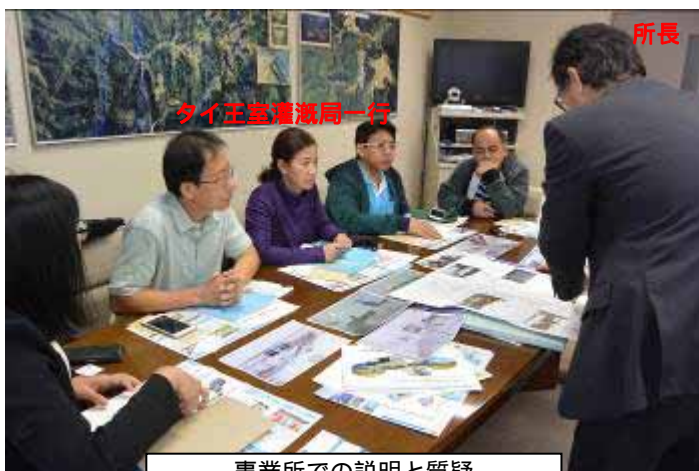
翌8日の午前中には一行が当事業所に来所され、鈴木所長他に挨拶した後、事業計画や事業管理等について説明を行いました。特に施行者としての国と自治体等の役割分担や、維持管理における土地改良区の存在、またダムサイト周辺の住民と改良区や行政との協働体制等について質問が繰り返されました。また、ダムカードによる地域振興にも関心を寄せていたようです。



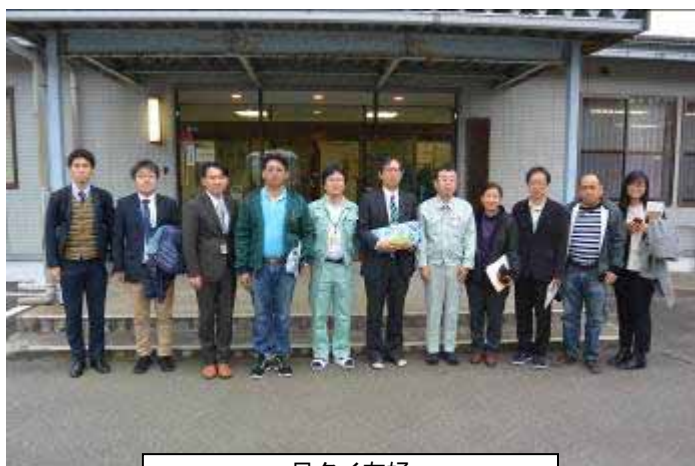
市野新田取水工現地を見る一行



栃ケ原ダム管理所での説明



事業所での説明と質疑



日タイ友好

正味1日と短い間ではありましたが、当事業や地域などについて理解を深めて頂けたと考えています。また、一行もとても有意義であったと満足だったとのこと。これまでも我が国はタイ王国と灌漑等について援助・連携等を行ってききましたが、今後は技術協力という側面からも交流を深めていきたいとのこと。その中で当事業所がこのように貢献できたことは欣快です。